

## 第 72 回全日本中学校通信陸上競技大会 大会要項

この大会要項は、すべての都道府県大会で共通した事項について記載しています。  
各都道府県大会に関する詳細は、各都道府県の陸上競技協会または中学校体育連盟において作成される大会要項をご参照ください。

1. 主 旨 全国で共通した実施要綱に基づいて各都道府県にて開催された競技会の記録を集計し、出場したすべての中学生の記録を日本陸上競技連盟のサイトに掲載して自身の努力の成果や挑戦の証を確認できるようにすることで、より多くの中学生が陸上競技の楽しさを体験し、目標に向かって取り組むことの重要性を学ぶ機会とする。また、本大会は第 53 回全日本中学校陸上競技選手権大会の標準記録突破指定大会とする。
2. 主 催 (公財) 日本陸上競技連盟、(公財) 日本中学校体育連盟、各都道府県陸上競技協会、各都道府県中学校体育連盟
3. 後 援 各都道府県教育委員会、NHK (予定)
4. 期 日 2026 年 4 月 1 日 (水) ~ 6 月 30 日 (火) の間に各都道府県において実施する。
5. 競技場 各都道府県内の日本陸上競技連盟 (以下「日本陸連」) 公認競技場。第 2 種以上の競技場が望ましい。
6. 競技種目 (1) 男子 16 種目  
1 年 100m、2 年 100m、3 年 100m  
[共通] 200m、400m、800m、1500m、3000m、110m ハードル (0.914m)、4×100m リレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投 (5.000 kg)、円盤投 (1.500kg)、  
四種競技 < ①110m ハードル ②砲丸投 (4.000 kg) ③走高跳 ④400m >  
  
(2) 女子 14 種目  
1 年 100m、2 年 100m、3 年 100m  
[共通] 200m、800m、1500m、100m ハードル (0.762m)、4×100m リレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投 (2.721kg)、円盤投 (1.000kg)、  
四種競技 < ①100m ハードル ②走高跳 ③砲丸投 (2.721kg) ④200m >  
  
《備考》  
\*ハードルは次の規格で行う。  
男子 110m ハードル…個数 10 台、高さ 0.914m、スタートラインから第 1 ハードルまで 13.72m、ハードル間 9.14m  
女子 100m ハードル…個数 10 台、高さ 0.762m、スタートラインから第 1 ハードルまで 13m、ハードル間 8m  
\*砲丸の重量は男子 5.000kg (四種競技は 4.000kg)、女子 2.721kg とする。  
\*円盤の重量は男子 1.500kg、女子 1.000kg とする。  
\*四種競技は上記の種目と順序で 1 日あるいは連続した 2 日で行う。2 日で行う場合は第 1 日に上記①②、第 2 日に上記③④の種目を行う。得点はワールドアスレティックス (世界陸連、以下「WA」) が定めた混成競技採点表 (男子十種競技、女子七種競技と同じもの) による。

(3) 各都道府県大会で独自に、上記(1)(2)以外の種目をオープンで実施することができる。オープンで実施する種目は全国ランキングおよび表彰の対象としない。

7. 競技規定 (1) 2026 年度日本陸連競技規則、および本大会要項・運営要項を適用する。

(2) トラック競技は写真判定システムによる全自動計時(電気計時)とする。

(3) 風力計測はデジタル風速計を使用する。

8. 参加資格 (1) 2026 年度日本陸連登録会員であること。

(2) 次の①②③のいずれかを満たしている者。ただし②または③により参加する場合は日本中学校体育連盟が定める「全国中学校体育大会に参加を認める『参加資格の特例』」にも準拠していること(別項参照)。

①各都道府県中学校体育連盟に加盟する中学校の生徒で学校長が参加を認めた者。

②学校教育法第134条の各種学校(1条校以外)に在籍する生徒で、学校長が参加を認め、各都道府県中学校体育連盟に参加を認められた者。

③地域クラブ活動を通じて都道府県陸上競技協会と日本陸連に団体登録、または都道府県や市町村等の陸上競技協会に個人登録して活動する中学生で、その団体の所属長が参加を認め、大会開催地の都道府県中学校体育連盟に参加を認められた者。

(3) 前項の①または②により参加する場合は、在籍する学校が所在する都道府県の大会に、日本陸連に中学校登録をしている加入団体(学校)の所属により参加する。

また、前項の③による参加は、各都道府県中学校体育連盟が定める参加資格に該当する場合に、その都道府県の大会に参加できる。所属は、日本陸連に団体登録をしている加入団体(地域クラブ活動等)、または個人登録をしている加盟団体(都道府県陸上競技協会)もしくは加入団体(市区町村などの陸上競技協会)とする。

\*前項の③による参加資格は都道府県によって異なるので、各都道府県の中学校体育連盟に確認すること。また、全日本中学校陸上競技選手権大会の参加に際しては、日本中学校体育連盟陸上競技部が定める「全日本中学校陸上競技選手権大会参加の特例細則」(別項参照)もあわせて満たす必要があるため、都道府県大会の時点から所属の選択に注意すること。

(4)

リレーは、「地域展開モデル地区や自治体主導で地域展開を進めるために発足した地域クラブ活動」、または、「地域展開の受け皿となっている地域クラブ活動」で参加することができる。(※)以下の要件を満たす場合は、地域クラブ活動の登録所在地の都道府県より参加することができる。

①「地域展開モデル地区や自治体主導で地域展開を進めるために発足した地域クラブ活動」又は「地域展開の受け皿となっている地域クラブ活動」に在籍している場合。

②在籍している学校に希望する部活動がないこと等の場合において、都道府県中学校体育連盟が都道府県をまたいだ大会参加を認めている場合。

(5) 複数の種目(リレーを含む)に参加する競技者は、すべての種目に同じ所属で参加すること。種目によって異なる所属で参加することは認めない。

9. 参加制限 (1) 1人2種目以内とする。ただしリレーはこの種目数に含まない。

(2) 学年別種目は該当学年の生徒に限る。

(3) 1人の競技者が、複数の都道府県大会に参加することはできない。

また、各都道府県大会が、都道府県内の地区別など複数の大会により分散開催される場合、1人の競技者が複数の大会に参加することはできない。ただし、本来出場すべき大会で実施されない種目がある場合は、各都道府県中学校体育連盟の承認を得れば、その種目に限り別の大会への参加も認める。

(4) 各都道府県大会に出場する方法や、オープンで実施する種目の参加制限は、各都道府県で独自に決めることができる。

10. 競技方法 (1) 各都道府県大会に出場したすべての競技者の記録を日本陸連で集計し、種目ごとに全国ランキングを日本陸連公式ウェブサイトに掲載する。本大会要項の「6. 競技種目」の(1)(2)で定めた共通種目を各都道府県大会で独自に学年別で実施した場合も、ランキングでは共通種目に出場したものとみなして掲載する。6.(1)(2)に定めていない種目をオープンで実施した場合はランキング対象としない。ランキングは2026年6月頃から、大会が終了し日本陸連に報告された都道府県大会の記録から順次集計、掲載し、すべての都道府県大会の集計と修正等への対応が完了した2026年8月頃に確定する。

(2) 全国ランキングは、WAのポイントランキング制度におけるリザルトスコアを引用し(100m、200m、100mハードル、110mハードル、走幅跳は風力に応じたポイントの加減も適用)、各競技者の記録をポイントに換算して決定する。ただし、四種競技はポイントではなく記録(総合得点)により決定する。

\*本大会のハードル種目、投てき種目は規格がシニア用と異なるが、ポイントはWAのリザルトスコアをそのまま引用して算出する。

\*参考として、記録によるランキングも日本陸連公式ウェブサイトに掲載する。

(3) 欠場、途中棄権、失格、記録なしなどにより対象となる記録がなかった競技者はランキングに掲載しない。四種競技は総合得点のみをランキング対象とし、種目ごとの記録は対象としない。また、日本陸連への登録が確認できない競技者は、各都道府県大会に出場しても記録を公認せず、ランキングからも除外する。

(4) 複数のラウンドに出場した場合、最もポイントの高いラウンドのポイントランキング対象とする。走幅跳は最もポイントの高い試技をランキングの対象とする。四種競技は総合得点が追風参考であってもランキングの対象とする。

\*風力を計測する種目は風力に応じてポイントが加減されるため、追風2.0mを超えた場合もランキング対象になり得る。また、風力に応じてポイントを

加減することにより、最も記録の良いラウンドまたは試技と、最もポイントの高いラウンドまたは試技が異なる場合がある。

(5) 各都道府県大会から日本陸連への結果の報告方法は、本大会の運営要項に定める。全国ランキングの掲載内容（記録、風力、氏名、学校名、学年等）は、原則として各都道府県から日本陸連への報告に基づいて掲載する。公開したランキングに誤りや欠落等がある場合は、日本陸連が指定した日までに各都道府県の担当者を通じて日本陸連に報告された内容に限り修正する。

(6) 各都道府県大会における各種目の実施方法は各都道府県で決めることができる。予選、(準決勝)、決勝の複数ラウンドを実施せず、決勝のみ実施し記録により順位を決定してもよい。

## 11. 表彰

(1) 各都道府県大会の各種目（独自に実施した 100m 以外の学年別種目、オープン実施種目を除く）8 位までに日本陸連と日本中学校体育連盟の連名による賞状を授与する。

(2) 各都道府県大会に出場したすべての競技者（欠場、途中棄権、失格、記録なしの場合を除く）に、日本陸連公式ウェブサイトに掲載する全国ランキングを通じて記録証（JPEG 形式）と参加認定証（PDF 形式）を授与する。記録証は当該競技者の記録が全国ランキングに掲載された後に随時、閲覧時点の順位を記載したものを各自がダウンロードできる。参加認定証は全国ランキングの確定後にダウンロードできる。

(3) 100m 以外の学年別種目、オープン実施種目は、各都道府県で独自の表彰を行うことはできるが、日本陸連からの賞状は授与しない。記録証、参加認定証は「10. 競技方法」の（1）によりランキングに掲載された場合のみ授与する。

## 12. その他

(1) 各都道府県大会が悪天候や感染症などの理由により予定した期日・会場で一部またはすべての競技を開催できない場合は、日本中学校体育連盟陸上競技部長および日本陸連の承認を得ることを条件に、当該競技について期日・会場・競技方法を変更して代替開催することを認める。ただし、代替開催が 2026 年 7 月 1 日以降になる場合は、本大会の全国ランキング、および第 53 回全日本中学校陸上競技選手権大会の参加資格の対象にならない。

(2) 各都道府県大会の 3 年 100m および共通種目が国民スポーツ大会（少年 B・少年共通種目）の都道府県予選会を兼ねる場合は、大会プログラムにその旨を明記すること。

(3) 各都道府県大会に参加を希望する競技者は、氏名、所属、学年、結果が日本陸連の公式ウェブサイトに掲載する全国ランキングに記載、公表されることに同意した上でエントリーすること。

(4) 各都道府県大会の映像・写真・記事・結果（参加者の氏名、所属、学年、結果）等は、日本陸連および各都道府県大会の主催者が承認した第三者が大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。

【参考・1】

日本中学校体育連盟 全国中学校体育大会「参加資格の特例」

◎学校教育法134条の各種学校（1条校以外）に在籍する中学生

（1） 学校教育法134条の各種学校（1条校以外）に在籍し、都道府県中学校体育連盟の予選会に参加を認められた生徒であること。

（2） 参加を希望する各種学校は以下の条件を具備すること。

① 全国大会の参加を認める条件

ア 公益財団法人日本中学校体育連盟の目的及び永年にわたる活動を理解し、それを尊重すること。

イ 生徒の年齢及び修業年限が我国の中学校と一致している単独の学校で構成されていること。

ウ 参加を希望する学校にあっては、運動部活動が学校教育の一環として、日常継続的に当該顧問教員の指導のもとに、適切に行われていること。

② 全国大会に参加した場合に守るべき条件

ア 全国大会開催基準を守り、出場する競技種目の大会申し合わせ事項等に従うとともに、大会の円滑な運営に協力すること。

イ 全国大会参加に際しては、責任ある当該校校長・教員または部活動指導員が生徒を引率すること。また、万一の事故発生に備え、傷害保険等に加入するなどして、万全の事故対策を立てておくこと。

ウ 大会開催に要する経費については、必要に応じて応分の負担をすること。

◎地域クラブ活動に所属する中学生

（1） 地域クラブ活動に所属し、都道府県中学校体育連盟またはブロック中学校体育連盟の予選会に参加を認められた生徒であること。

（2） 全国中学校体育大会に参加を希望する地域クラブ活動は以下の条件を具備すること。

① 全国中学校体育大会の参加を認める条件

ア （公財）日本中学校体育連盟の目的及び永年にわたる活動を理解し、それを尊重すること。

イ 生徒の年齢及び修業年限が我が国の中学校と一致している（中学校に在籍している生徒であること）。

ウ 地域クラブ活動にあっては、日常継続的に代表者もしくは指導資格を有する指導者の指導のもとに、適切に行われていること。

エ 『学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン』（令和4年12月27日スポーツ庁・文化庁発出）の「Ⅱ 新たな地域クラブ活動」を遵守していること。

オ 当該競技を管轄する中央競技団体もしくは都道府県競技団体に登録されていること。かつ同じ内容で都道府県中学校体育連盟に登録していること（登録費については、都道府県中学校体育連盟の方針による）。

カ 都道府県における予選会となる全ての大会において、競技役員や審判など運営上必要な事項に協力すること。

キ 地域クラブ活動で全国中学校体育大会につながる大会に参加する場合、在籍中学校での大会参加は認めない。その逆も同様である。

② 全国中学校体育大会に参加した場合に守るべき条件

ア 全国中学校体育大会開催基準を守り、出場する競技種目の大会申し合わせ事項等に従うとともに、大会の円滑な運営に協力すること。

イ 全国中学校体育大会参加に際して、地域クラブ活動においては、責任ある代表者もしくは指導者が生徒を引率すること。また、万一の事故発生に備え、傷害保険等に加入するなどして、万全の事故対策を立てておくこと。

ウ 全国中学校体育大会開催に要する経費については、必要に応じて、応分の負担をすること。

エ 団体競技における地域クラブ活動名での出場は1チームのみとする（複数のチームの参加はできない）。

③ 参加を認めない場合

ア 全国中学校体育大会参加申込に際して、参加条件に虚偽の内容が判明した場合は参加を認めない。

【参考・2】

令和8年度全国中学校体育大会 地域クラブ活動の参加特例における陸上競技部細則

日本中学校体育連盟 全国中学校体育大会「参加資格の特例」の(3)として「全日本中学校陸上競技選手権大会参加の特例細則」を以下の通り追加する。

(3) 全日本中学校陸上競技選手権大会参加の特例細則

在籍している学校の所属、または日本陸上競技連盟に登録をしている地域クラブ活動の所属からのいずれかで参加できる。いずれの場合も、在籍している学校が所在する都道府県より、標準記録突破指定大会、全日本中学校陸上競技選手権大会に、参加する（標準記録突破指定大会の参加資格は各都道府県中学校体育連盟が定める）。ただし、以下(※)に該当する地域クラブ活動についてはこの限りではない。リレーは、「地域移行モデル地区や自治体主導で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動」、または、「地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動」で参加することができる。複数の種目（リレーを含む）に出場する場合、種目によって異なる所属から出場することはできない。

(※) 以下の2つの要件を満たす場合は、地域クラブ活動の登録 所在地の都道府県より参加することができる。

① 「地域移行モデル地区や自治体主導で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動」又は「地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動」に在籍している場合。

② 在籍している学校に希望する部活動がないこと等の場合において、都道府県中学校体育連盟が都道府県をまたいだ大会参加を認めている場合。